



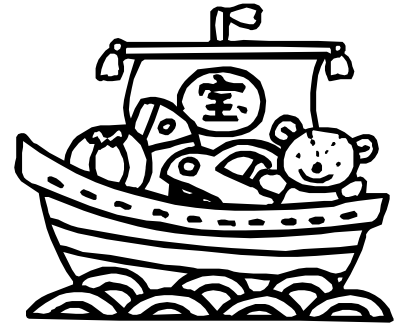
2020. 1. 14

ひなご幼稚園園長 神戸洋美

ご先祖様が残してくれたもの

2020年の新しい年がスタートしました。今年1年が皆様にとって素晴らしい年となりますようお祈りいたします。3学期が始まり子どもたち全員の笑顔が揃いました。冬休みの5つの約束を守れたか確認したところ、どの子どもも元気に手を挙げていました。ご家族揃って賑やかな年末・年始をお迎えになったことと思います。

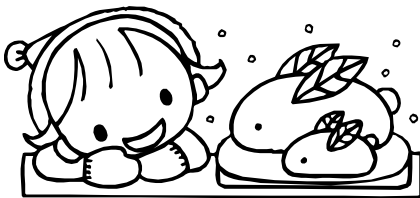
我が家も子どもたちや孫たちが来訪し、家の中がてんやわんやの嵐状態でした。みんなで食事をしている時に、私の父が生前にあれこれ集めていた骨董品の話になったのです。2階の奥の片隅に物置があり、そこに父親のコレクションの品が置いてありました。主人と私も急に何か起きた時の事を考え、その物置の中も含め、家の中を片付けなければと考え始めていたところでした。子どもたちが協力して片付けてくれると言いますし、父が集めた物にあまり執着心もなかったため、子どもたちに任せることにしたのです。みんなでお正月に大掃除することに決定しました。



さあ、どんなお宝が眠っているのか、年が明けてみんな総出で胸ワクワクで作業を始めました。処分したお金で温泉旅行にいかうか、ディズニーランドかUSJもいいよね、よし泊まるホテルはミラコスタだ、などと夢いっぱい話をしながら品物を出しました。古い壺、掛け軸、置物等々、たくさん出てきました。男性陣がネットで調べ、とある所に買い取りしてもらおうと持っていきました。TVのお宝鑑定団と同じです。みんなで楽しみに待っていました。

「オープン ザ プライス！結果は？」出かける時にはニコニコだった男性陣、みんなしょぼんとして帰ってきました。結局、らしいものは中国の掛け軸が1万円という価値で、あとは全てガラクタ扱いだったそうです。20点ほど持って行った品物が全部でしめて2万円で終わり。「ジャカジャン！」

30年ほど前に父親が一生懸命集めた骨董品。金額はわかりませんが相当な額をつぎ込んだと思います。それがたったの2万円。全員の食事代にもなりません。でもご先祖様は、『こうしてみんなで家の大掃除をして楽しい夢を見れたこと。きっと家が「片付けてくれてありがとう。」と喜んでいること。新年から家族みんなが仲良く出来たこと。』と、私たちに一番大切なものを残してくれた気がします。亡くなった両親も祖父母もきっと天国で喜んでいてくれるでしょう。



勇気をくれる言葉

以前はノートに書き綴っていたのですが、今ではスマホに写真で取り込んで、必要な時に画面を見て引っ張り出します。職業上、ご挨拶する時に、また毎日の生活でちょっと落ち込んだ時に、その言葉の数々は私を助けてくれます。少し長いものもありますので、

この「めばえ」でご紹介できなかったものを書いていこうと思います。

◎憂えるのは疑うからである。憂えるから失敗する。うれえるの反対は喜ぶことである。希望にもえること、信ずることである。喜びより発して、信に帰る。人生は信によって成る。

◎戻らない昨日を悔やむのも、定からぬ明日を思い煩うのも「心の無駄」です。今日一日の決算は、今日一日でけりをつける。失敗した悔しさはその日のうちに反省し尽くす。

◎ひなご幼稚園に転園した時、不安に感じていた私の話を聞いて温かく受け入れてくださったこと、今でも忘れません。「ひなごにしてよかった。」そう思えた瞬間です。(保護者様より)

◎国の宝というのは、立派な宝石などではなく、社会の目立たないところで真面目に働いて、その目立たないところを明るく輝かせる人のことです。そのような人たちこそ国の宝だ、というのです。

この最後の言葉は天台宗の宗祖・最澄の言葉で、今年の私の指針です。これを**今月のヒント**といたします。